

現代中国語の動詞・潜在文成分・話題

名誉教授 松 村 文 芳

0. はじめに

朱徳熙は「項」や「文成分」の有する格役割義を含意させながら、それを議論の主としないで「項」として抽象化し、「抽象化した項」を文の意味構成（演算）表示を行う対象としたのである。意味構成表示を行うためには「格役割義」のちがいは障害になるので、とりあえずそれを脇において「項」の数量を根拠として文の意味の成立を捕らえようとしたのである。その思考は動詞を「その動作を行う個体の集合」と捕え、その動詞と共に起する「項」を個体とする「モデル理論意味論」の論理技法と同一線上にあると言える。

ここで論じる内容は以下のものである。

1. 一項動詞、二項動詞、三項動詞及び多項動詞の論理式
2. 潜在主語と潜在目的語の論理式
3. 主語と話題の論理式

まず1からはじめる。

1. 一項動詞、二項動詞、三項動詞及び多項動詞の論理式

ここでは朱徳熙 1980 の「“的”構造と判断文」であげられている「単向、双向、三向動詞」およびその他について、どのように論理式で表記できるかを論じる。原著の pp. 125 – 129 の用例については形式的な説明があるだけで、意味については何も説明がないが、朱徳熙 1980 がどのような意図のもとにこれらの用例をあげたかを意味を重点に考える。

(1) 一項動詞

まず、一項動詞の左側の用例を順に論じる。

1. 我游泳

1' 游泳' (我) [動作]

2. 他休息

2' 休息' (他) [行為]

3. 他醉了 [身体変化]

3' 醉' (他) & 有' {醉' (他), 了}

4. 孩子病了 [身体変化]

4' 病' (孩子) & 有' {病' (孩子), 了}

5. 他长大了 [身体変化]

5' 长大' (他) & 有' {长大' (他), 了}

これらの用例は題述文と考えられる。1から5の主語である「我」「他」「他」「孩子」「他」は後続する動詞の表す「動作」「行為」「身体変化」が実行される前にすでに存在している。それを「確定性」と呼ぶことにすると、1から5の主語はいずれも意味上「確定性」を有すると言える。朱徳熙 1980 は一項動詞の用例で主語が「確定性」を持つものを「題述文」としている。「題述文」と「話題化文」とは異なる。「話題化文」については後述する。

次に右側の用例を説明する。朱徳熙 1980 はこれらの用例についてその挙例の意図するところを述べていないが前述の用例と比較すると非題述文を考えていると推察される。朱徳熙 1980 は次の6、7、9ではそれぞれの用例の表す動作「打」「出」「飛来」が実行される前にそれぞれの動作の「主体」は存在していない。それを「不確定性」とよぶと、6、7、9が非題述文とみなされるのは「主体」の〔-存在〕を考慮していると考えられる。8と10は「自然現象」の主体である「冰：こおり」と「水：おゆ」は自然現象の発生する前に存在しているので「確定性」を有する。その点から言えば題述文であるが、朱徳熙 1980 は8と10が全体が自然現象を表す文で「冰」と「水」を「題」ではなく、「現象の構成成分」と考えたのであろう。つまり形式上は題述文であるが、意味上は「下雨」「刮風」と同じように非題述文の範疇にはいると考えたのである。

6の例では「雷」は「打」してはじめて存在するので、つまり「-存在」であるので6の文の出現時には意味上「不確定」である。そのことを論理式で表記すると存在量化子を用いることになる。それによる表記が6'である。

6. 打雷了

6' $\exists x [雷'(x) \& 打'(x) \& 有' |打'(x), 了\}]$

6' は「少なくとも一個の x について、 x が “雷” であり、かつ x が “打” し、 x が “打” することが完了した」と読めばよい。

上例に倣って、7 の文も太陽は「出」してはじめて存在するので、つまり 「- 存在」であるので7 の文の出現時には意味上 [不確定] である。そこで存在量化子を用いる。それが7' になる。

7. 出太阳了

7' $\exists x [\text{太阳}'(x) \ \& \ \text{出}'(x) \ \& \ \text{有}'\{\text{出}'(x), \ \text{了}\}]$

7' は「少なくとも一個の x について、 x が “太阳” であり、 x が “出” し、かつ x が “出” することが完了した。」と読む。

つぎに8を考える。8は「冰がとけた。」の意であるが、「化冰了」とはならない。「化冰了」であれば「とけて氷になった」という現実的でない意味がうまれるからである。その理由は「氷はとけて現れるものではない」からである。つまり、「冰」は「化」する前に存在しているのである。「冰」は「不確定性」ではなく「確定性」を有している。従って論理式は8' になる。

8. 冰化了

8' $\text{化}'(\text{冰}) \ \& \ \text{有}'\{\text{化}'(\text{冰}), \ \text{了}\}$

朱徳熙 1980 が8の用例をここにいれたのは主語の「冰」が先行詞を有するものでなく、つまり「有指示」ではなく、またこれが「冰」の消失を表す「消失文」で「存在・出現」を表す「存現文」とかかわると考えたと推察される。

次の9は先の6、7と同類である。「蝴蝶」は「出来」してはじめて存在す

るので「-存在」である。従って存在量化子を用いて論理式を書ける。

9. 飞来了一只蝴蝶

9' $\exists x [蝴蝶'(x) \ \& \ 有'(x, \text{一只}) \ \& \ 飞来'(\text{一只}) \ \& \ 有'\{\text{飞来}'(\text{一只}), \text{了}\}]$

9'は「少なくとも一個のxについて、xが“蝴蝶”であり、かつxが“一只”であり、かつ“一只”が“飞来”し、かつ“一只”が“飞来”する」とが完了した。」と読む。

次の10は日本語では「お湯がわいた。」の意味である。従って「お湯」の意を表す“水”は「+存在」の意味を持ち、〔確定性〕を有する。論理式は10'になる。

10. 水开了

10' 开'(水) & 有'\开'(水), 了}

先の8の用例では「冰」は「化」する前の事物を表すが、10では「水」は「开」した後の事物を表す。朱徳熙1980は項である「冰」と「水」の〔確定性〕に着目した。

(朱徳熙1980: 126)

(2) 二項動詞

二項動詞についても朱徳熙1980の用例に従って説明する。まず左側の例を論じる。

1. 我写字

1' 写' (我, 字)

2. 他坐火车

2' 坐' (他, 火车)

3. 我姓王

3. 姓' (我, 王)

4. 我相信这一点

4' 相信' (我, 这一点)

上の 1 から 4 の例の論理式はいずれも二項函数で表示される。いずれも主語が代詞で「指示性」(= [確定性]) を有し、提示語（主語）について説明する文であるので「題述文」と考えられる。

次に右側の用例を論じる。これらの用例は形式上は二個の項を持つが、論理式は単純な二項函数ではなく、複合二項函数とみなすことができる。つまり、次の「」を有する論理式ではなく、「」を有する論理式になる。

5. 这把刀切肉

5' 切' (这把刀, 肉)

5" 有' 【这把刀, 用' [α, 这把刀, 切' (α, 肉) & 用' 切' (α, 肉), 这把刀]】

6. 他拿来一封信

6' 拿来' (他, 一封信)

6" 有' {他, 拿' (他, 一封信) & 来' (一封信) & 在' (一封信, 他)}

7. 台湾属于中国

7' 属于' (台湾, 中国)

7" 有' {台湾, 属于' (台湾, 中国)}

8. 他有两个孩子

8' 有' (他, 两个孩子)

8" 有' {他, 有' (他, 孩子) & 有' (孩子, 两个)}

5"、6"、7"、8" の論理式は「有」函数の第一項が第二項の論理式を属性として持つことを示している。このことは5から8の文は「話題」(提示語)について、「評言(コメント)」(説明語)が説明をするものであることを示している。従って5から8の文は話題化文である。(朱徳熙 1980: 126)

(3) 一項動詞にも二項動詞にも用いられる動詞

ここでも朱徳熙 1980 の挙例の左側の一項動詞をまず説明する。1から4の文は主語が代詞、固有名詞、唯一物体であり、[確定性]を有するので題述文である。

1. 他笑了

1' 笑'(他) & 有' {笑'(他), 了}

2. 他死了

2' 死'(他) & 有' {死'(他), 了}

3. 北京队打败了

3' 打敗' (北京队) & 有' [打败' (北京队), 了{ }

4. 地球老在转

4' 有' (老, RT1) & 有' (RT1, 在) & 有' {在, 转' (地球)}{ }

4について説明をしておきたい。“老”は「いつも」の意の“地球在转”的状況語である。「いつも」は「地球がまわっている」を作用域とするが、その作用域には時間点があり、それを参照時間点と呼ぶことにする。すると「老」は参照時間点 RT1 を有し（呼び出し）、その参照時間点は「在」で示される「進行」の時態を有する（呼び出す）。「進行」の時態は「地球が回る」を作用域とするので第三の命題“有' {在, 转' (地球)}”が成立する。

次に右側の二項動詞について述べる。5から8の文は主語が代詞、固有名詞で述語が表す「動作」が実現する前に「存在」しているの「確定性」を有するので題述文である。

5. 他笑我

5' 笑' (他, 我)

6. 他死了父亲

6' 有' 【他, $\exists x$ [父亲' (x) & 死' (x) & 有' {死' (x), 了{ } }]】

6について説明しておこう。6は「他」を主語とする題述文であるが、“死了父亲”という述語は「できごと」を表す非題述文である。この非題述文の論理式は「少なくとも一個の x について、x が“父亲”であり、かつ、

x が “死” し、x が “死” することが完了した」と読めばよい。

7. 北京队打败了山东队

7' 打敗’(北京队, 山东队) & 有’|打敗’(北京队, 山东队), 了{

8. 你转一下轱辘

8' 转’(你, 轮轆) & 有’|转’(你, 轮轆), 一下{

(朱德熙 1980: 127)

(4) 三項動詞 a

動詞の後ろに「間接目的語」と「直接目的語」を有する形式を持つ。1から5の用例はいずれも述語が「話題」について説明する文ではなく、個々の用例全体が「出来事の説明」を表しているので題述文である。話題化文ではない。次の用例の論理式は二項函数で表示したものと三項函数で表示したものが並列されているがともに題述文であり、話題化文ではない。

1. 我送他一本书

1' 送’(我, 一本书) & 到’(一本书, 他)

1" 送’|我, 他, 送’(我, 书) & 有’(书, 一本) & 到’(一本, 他){

2. 我告诉你一个消息

2' 告诉’(我, 一个消息) & 到’(一个消息, 你)

2" 告诉’|我, 你, 告诉’(我, 消息) & 有’(消息, 一个) & 到’(一个, 你){

3. 他借我一辆车

3a' 借’(他, 一辆车) & 到’(一辆车, 我) (貸した)

3a" 借' {他, 我, 借' (他, 车) & 有' (车, 一辆) & 到' (一辆, 我)}

3b' 借' (他, 一辆车) & 到' (一辆车, 他) (借りた)

3b" 借' {他, 我, 借' (他, 车) & 有' (车, 一辆) & 到' (一辆, 他)}

4. 他教我数学

4' 教' (他, 数学) & 到' (数学, 我)

4" 教' {他, 我, 教' (他, 数学) & 到' (数学, 我)}

5. 他送给我一本字典

5' 送给' (他, 一本字典) & 到' (一本字典, 我)

5" 送给' {他, 我, 送' (他, 一本字典) & 到' (一本字典, 我)}

(朱德熙 1980: 127)

(5) 三項動詞 b

文頭の名詞句は後続する文の表す出来事が実現する前に存在しているので「確定性」を有する題述文である。しかし、後続する文が述語ではなく、文頭の名詞句を含む「事態」を表す文であることから、題述文ではなく、「話題化文」とするのがふさわしい。

1. 这把刀我切肉

1' 有' 【这把刀, 用' [我, 这把刀, 切' (我, 肉) & 用' {切' (我, 肉), 这把刀! }]】

2. 这个杯子我喝茶

2' 有' 【这个杯子, 用' [我, 这个杯子, 喝' (我, 茶) & 用' {喝' (我, 茶),

这个杯子{ }]】

3. 这间屋子咱们堆东西

3' 有'【这间屋子, 在' [咱们, 这间屋子, 堆' (咱们, 东西) & 在' 堆' (咱们, 东西), 这间屋子{ }]】

4. 这扇门我已经上过漆了

4' 有'【这扇门, 在' [我, 这扇门, 上过' (我, 漆) & 有' {上过' (我, 漆), 了{ } & 有' (了, 已经) & 在' (已经, 这扇门)]】

5. 这种事我不发生兴趣

5' 有'【这种事, 对' [我, 这种事, 一发生' (我, 兴趣) & 对' {一发生' (我, 兴趣), 这种事{ }]】

6. 这件事我有意见

6' 有'【这件事, 对' [我, 这件事, 有' (我, 意见) & 对' {有' (我, 意见), 这件事{ }]】

(朱徳熙 1980: 128)

ここの 1 から 6 の文はその論理式の最初の「有」函数の第一項が「話題」でその「話題」が第二項で示される三項函数をその「話題」の有する「拡張属性」であると考えることができる。この論理式から「話題」が「拡張属性」から作り出されていることがわかる。

(6) 三項動詞 c

述語が動詞性構造をもつ文である。論理式は最初に現れる動詞あるいは

前置詞が函数となる三項函数である。いずれも題述文であり、話題化文ではない。

1. 我帮他收拾屋子

1' 帮' [我, 他, 收拾' (我, 屋子) & 帮' |收拾' (我, 屋子), 他{ }] (帮=对)

2. 我跟他打电话

2' 跟' [我, 他, 打' (我, 电话) & 跟' |打' (我, 电话), 他{}]

3. 我陪他去看电影

3' 陪' [我, 他, 去' (我) & 有' |去' (我), RT1} & 有' [RT1, 看' (我, 电影) & 陪' |看' (我, 电影), 他{}]】

4. 我用这把刀切肉

4' 用' [我, 这把刀, 切' (我, 肉) & 用' |切' (我, 肉), 这把刀{}]

5. 我对他有意见

5' 对' [我, 他, 有' (我, 意见) & 对' |有' (我, 意见), 他{}]

(朱德熙 1980: 128-129)

1'、2'、4'、5' の論理式においては、最初の函数“帮”“跟”“用”“对”がその第三項の第二命題にも出現している。3'においては“陪”が第三項の第三命題の中の第二項の第二命題に出現している。これらの論理式では最初の函数が前置詞の表示する意味を、後の函数が動詞の意味を表していることが示されている。

(7) 四項動詞

四項動詞以上は連動式動詞文になる。参照時間点を運用して記述することができる。朱徳熙 1980 は“去”を本動詞にいれているが、ここでは方向補語とした。“陪, 上, 看望”等の動詞がそれぞれ函数の演算を終了するたびに、参照時間点 (RT) を呼び出し、その参照時間点が次の函数を呼び出して、演算を実行していることがわかる。題述文とみることができる。

1. 我陪他上医院去看病人

1' 陪' (我, 他) & 有' {陪' (我, 他), RT1} & 有' [RT1, 上' (我, 医院)
 & 有' {上' (我, 医院), 去'} & 有' (去, RT2) & 有' {RT2, 看望' (我,
 病人)}]

(朱徳熙 1980: 129)

(8) 八項動詞

これも連動式動詞文である。さきの四項動詞とおなじ技法でそれぞれの動詞が演算を終了すると参照時間点 RT を呼び出し、その RT が次の動詞を函数として演算を実施終了していることがわかる。題述文である。

1. 小王上完课吃了饭冒雨回来拿电话簿去打电话找小李商量事情

1' 上完' (小王, 课) & 有' {上完' (小王, 课), RT1} & 有' [RT1, 吃' (小王,
 饭){} & 有' (饭, 了){} & 有' (了, RT2) 有' [RT2, 冒' (小王, 雨) & 到' {冒'
 (小王, 雨), 回来' (小王){}] & 有' {回来' (小王), RT3} & 有' [RT3, 拿'
 (小王, 电话簿) & 有' {拿' (小王, 电话簿), 去'} & 有' (去, RT4) & 有'
 [RT4, 打' (小王, 电话) & 到' {打' (小王, 电话), 找' (小王, 小李){}] &
 有' {找' (小王, 小李), RT5} & 有' [RT5, 跟' [小王, 小李, 商量'] (小王,

事情) & 跟' {商量' (小王, 事情), 小李}]】

(刘海燕 2008: 2)

朱德熙 1980 のこの論文は用例を簡潔に形式中心に説明しているが、論理式に表示してみると意味についても周到な考察を加えていることが明らかになった。話題化文は文脈依存規則により処理され、題述文と非題述文は文脈自由規則によって扱われることになる。

次に 2 について考える。

2. 潜在主語と潜在目的語の論理式

2.1 朱德熙 1980 の潜在主語、潜在目的語など

朱德熙 1980 は「しかし、二者（「写文章的人」の「写」と「人」）の間には主語と述語の関係が含意されている（p. 129）」と述べている。これは朱德熙 1980 が「写文章的人」は内面的には「人写文章的」と「人」が結びついたものであると考えていることを示している。

ここで「人写文章的」と「人」の結びつきについて考察しよう。議論の明確化のためにより分析的に言えば、「人写文章」と「的」と「人」の結合についてである。これは「的」を介して「人写文章」と「人」が結びついていると捕らえることができる。

「人写文章」と「人」が結びつくためには「人写文章」の「人」と結びつく対象である「人」とは一致しなければならない。このことは結合される対象である「人」は「人写文章」という情報を自明のこととして結合の前に保持していかなければならないことを示している。

「人写文章」という情報を「事態の可能性」と呼び、結合される対象である「人」を「そのもの」と呼ぶことになると、「「人写文章」という「事

態の可能性」はすでにそのもの「人」において先取りされていなければならない（野矢茂樹訳、L. ウィトゲンシュタイン著：14）」と言い換えることができる。

上述のような思考過程を朱徳熙 1980 は簡単に「「人」は「写」の潜在主語である」と述べている。さらに朱徳熙 1980 は「我写的文章」の中の間接成分「写」と「文章」の間には述語と目的語の関係が含意されている（p. 129）」と述べている。そして、「文章」は「写」の潜在目的語であるとする。

この場合も朱徳熙 1980 は内面的には「我写的文章」は「我写文章的」と「文章」の結合したものだと考えていることを示している。これもより分析的に考えて「我写的文章」は「我写文章」と「的」と「文章」の結びついたものとして論を進める。「我写文章」が「的」を介して「文章」と結びつくためには「我写文章」の「文章」がその結びつく対象である「文章」と一致しなければならない。このことは結合される対象である「文章」は「人写文章」という情報を必然のこととして結合の前に有していなければならないことを示している。

「人写文章」という情報を「事態の可能性」と呼び、結合される対象である「文章」を「そのもの」と呼ぶことになると、「「人写文章」という「事態の可能性」はすでにそのもの「文章」において先取りされていなければならない（野矢茂樹訳、L. ウィトゲンシュタイン著：14）」と言い換えることができる。

朱徳熙 1980 の述べる“潜”は L. ウィトゲンシュタインの「事態」を意味し、“潜主語”は「事態における主語」を指し、“潜宾语”は「事態における目的語」を指しているのである。

2.2 朱徳熙 1980 (p. 129) の話題化文、被構文、把構文の潜在主語、潜在目的語と論理式

朱徳熙 1980 は「次の (1) と (2) の潜在目的語 は主語 (正確には話題 (松村)) の位置に現れ、(2) の潜在主語の“我”と (3) の潜在目的語の“杯子”は前置詞構造の中に現れている (p. 129)」と述べている。

- (1) 杯子我打破了
- (2) 杯子被我打破了
- (3) 我把杯子打破了

この (1)、(2)、(3) を論理式になおすと次のようになる。

- (1)' 有' [杯子, 打破' (我, 杯子) & 有' |打破' (我, 杯子), 了{ }]
- (2)' 被' [杯子, 我, 打破' (我, 杯子) & 有' |打破' (我, 杯子), 了{ } & 到' (了, 杯子)]
- (3)' 把' [我, 杯子, 打破' (我, 杯子) & 有' |打破' (我, 杯子), 了{ } & 到' (了, 杯子)]

(1) と (2) の潜在目的語 “杯子” はそれぞれ (1)' の有' 函数の第二項の第一函数の第二項の “杯子” であり、(2)' の論理式中の被' 函数の第三項の第二函数の第二項の “杯子” である。(2) の潜在主語の “我” は (2)' の被' 函数の第三項の第二函数の第一項の “我” である。また (3) の潜在目的語の “杯子” は (3)' の把' 函数の第三項の第二函数の第二項の “杯子” である。(2) の潜在主語の “我” が前置詞構造に現れることは (2)' の論理式の被' 函数の第二項に我と表記され、(3) の潜在目的語の “杯子” が前置詞構造に現れることは (3)' の把' 函数の第二項に杯子と表記されることで示されている。

2.2 の冒頭にあげた (1)、(2)、(3) の文について述べた朱徳熙 1980 の

論述内容はすべて論理式 (1)'、(2)'、(3)'において明示されているのである。従って朱徳熙 1980 の記述はここで示した論理式の内容を巧みに自然言語化したものであると評することができる。

2.3 三項動詞における潜在主語、潜在直接主語、潜在間接主語、潜在目的語、潜在直接目的語、潜在間接目的語とそれぞれの論理構造、論理式

朱徳熙 1980 は「三項動詞には潜在主語、潜在直接主語、潜在間接主語、潜在目的語、潜在直接目的語、潜在間接目的語が存在している。(p.130)」と述べ、その用例 D1、D2、D3 を挙げている。用例には潜在直接主語、潜在間接主語は明示されていないがそれは後に考えることにして、ここではそれぞれの用例の論理構造を考察し、その結果を論理式に表示してみよう。

D1. 旁边站着的 [那个人] (潜在主語)

D1 を三項動詞の例になぜ挙げたのかは不明であるが、[那个人] が潜在主語であることは事態を表す「那个人在旁边站着」において「站」の主語として「那个人」が存在することからわかる。D1 は「那个人在旁边站着」と「的」と「那个人」の結合と考えられるが、前述の説明に準じて考えると「那个人」は「那个人在旁边站着」という事態を先取りしていなければならない。

D2a. 他把 [杯子] 打破了 (潜在目的語)

この文の論理式は次のようにになる。

D2a'. 把' [他, 杯子, 打破'] (他, 杯子) & 有' [打破'] (他, 杯子), 了{} & 到' (了, 杯子)]

D2a の [杯子] が潜在目的語であることは D2a' の論理式において把' 函数の第三項の打破' 函数の第二項に「杯子」が入っていることからわかる。

D2b. 把杯子打破的 [人] (潜在主語)

この連語の論理構造は「人把杯子打破」と「的」と「人」の結合と考えてよい。「的」を介することにより「人」は事態「人把杯子打破」を先取りしていなければならない。この先取りされた事態において「人」は「打破」の主語となっている。それを朱徳熙 1980 は潜在主語とよんでいるのである。

D2c. 他打破的 [那个杯子] (潜在目的語)

この連語の論理構造は「他打破那个杯子」と「的」と「那个杯子」の結合と考えられる。「的」を介することにより「那个杯子」は事態「他打破那个杯子」を先取りしていなければならない。この先取りされた事態において「那个杯子」は「打破」の目的語となっている。それを朱徳熙 1980 は潜在目的語とよんでいる。

D2d. 杯子被 [他] 打破了 (潜在主語)

この文の論理式は次のように書ける。

D2d'. 被' [杯子, 他, 打破' (他, 杯子) & 有' 打破' (他, 杯子), 了] & 到' (了, 杯子)]

D2d' の論理式において被' 函数の第三項の打破' 函数の第一項に「他」が存在することにより「他」が「打破」の主語であることが読み取れる。それを朱徳熙 1980 は潜在主語と呼ぶ。

D2e. 打破杯子的 [人] (潜在主語)

この連語の論理構造は「人打破杯子」と「的」と「人」の結合と考えてよい。「的」を介することにより「人」は事態「人打破杯子」を先取りしていなければならない。この先取りされた事態において「人」は「打破」

の主語となっている。それを朱徳熙 1980 は潜在主語とよぶ。

D3a. 我帮他打铺盖的〔那个人〕（潜在間接目的語）

D3a の論理構造は「我帮他打铺盖」と「的」と「那个人」の結合と考えてよい。「的」を介することにより「那个人」は事態「我帮他打铺盖」を先取りしていかなければならない。この先取りされた事態において「他」は「那个人」と同一指示であるが「他」は「帮」の間接目的語となっている。それを朱徳熙 1980 は潜在間接目的語とよぶ。「他」が潜在間接目的語であることは日本語で「私がかれに寝具を敷いてやる」の「…に」でわかるが、「我帮他打铺盖」を論理式で表すとより明示的になる。その論理式は次のように書ける。

～に ～が ～に 敷く ～が ～を である ～は ～に
 D3a' 帮' [我, 他, 打' (我, 铺盖) & 到' 打' (我, 铺盖), 他]]
 行う ～が ～に ～することを

D3a' の最初の帮' フィルムは「～に代わって（～ことを行う）」という意の三項フィルムでその第二項の「他」が「与格」の役割をする「間接目的語」となっている。従って D3a' は「わたくしが彼に私が寝具を敷く、かつ、私が寝具を敷くことは彼にである」と読めばよい。

D3b. 帮他打铺盖的〔那个人〕（潜在主語）

D3b の論理構造は「那个人帮他打铺盖」と「的」と「那个人」の結合である。「那个人」は「那个人帮他打铺盖」という事態を先取りしている。この事態において「那个人」は述語「帮他打铺盖」の主語になっている。この主語を朱徳熙 1980 は潜在主語と呼んでいる。念のために「那个人帮

他打铺盖」という事態の部分を論理式で表示しておく。

D3b' 帮' [那个人, 他, 打' (那个人, 铺盖) & 到' 打' (那个人, 铺盖), 他{ }]

D3b' の最初の帮' フィルムは「～に代わって (～ことを行う)」という意の三項フィルムでその第一項の「那个人」が「主格」の役割をする「主語」となっている。D3b' は「あの人があの人にあの人が寝具を敷き、かつ、あの人があの人が寝具を敷くことは彼にである」と読めばよい。

D3c. 我帮他打的〔铺盖〕（潜在直接目的語）

D3c の論理構造は「我帮他打铺盖」と「的」と「铺盖」の結合と考えられる。「铺盖」は「我帮他打铺盖」という事態を先取りしていなければならない。この事態において「铺盖」(寝具を) は「打」(敷く) の直接目的語である。この直接目的語を朱徳熙 1980 は潜在直接目的語と称している。この事態「我帮他打铺盖」も論理式で表記しておく。

D3c' 帮' [我, 他, 打' (我, 铺盖) & 到' 打' (我, 铺盖), 他{ }]

D3c' において、最初の帮' フィルムの第三項の打' フィルムの第二項「铺盖」が朱徳熙 1980 の称する潜在直接目的語である。

以上が朱徳熙 1980 の p. 129 から p. 130 にかけての「潜在主語と潜在目的語」についての『論理哲学論考』と論理式からの考察である。朱徳熙 1980 が論述する「潜在」は内面において『論理哲学論考』や論理式と呼応しあうものであることがわかる。

最後に 3 を論じる。

3. 主語と話題の論理式

朱徳熙 1982 は「話し手が主語にするのは彼が最も関心を持つ話題（話題）である。述語はその話題に対する叙述（陈述）である。主語が話題であると言うのは談話の視点（表达的角度）から述べたものである（p. 96）。」と記述している。

朱徳熙 1982 を注意深く読むと「中国語の主語は話題である。」ということが丁寧に、説得的に書かれていることがわかる。その内容は後に詳しく考察することにして、ここではまず朱徳熙 1982 のあげる主語の用例の論理式を網羅的に記すことにする。

3.1 朱徳熙 1982 の 7.1.1 の用例の論理式

次の 1 から 3 の用例の「話題」の後に生起する“啊”“嘿”“吧”は「感嘆」「確認」「回想」の意を含意したうえで、「話題」が後続する「叙述」と「事物・人間とその「拡張属性」の関係」にあることを示す「有’函数」の役割を有する。

1. 这件事啊, 得好好商量一下。(p. 95)

1'

啊' [这件事, 得' |我们, 商量' (我们, 这件事) & 有' (这件事, 一下) & 有' (一下, 好好){}]

(= 有')

注釈① “啊”は“这件事”的拡張属性である“得’ |我们, 商量’ (我们, 这件事) & 有' (这件事, 一下) & 有' (一下, 好好){}”を呼び出す。② “这件事”は得’ 函数の第二項の第一命題の第二項の“这件事”と同一指示で

ある。

2. 价钱嘿, 也不算贵 (p. 95)。

2'

嘿' [价钱, 有' (也, RT1) & 有' [RT1, 「算' {我们, 贵' (价钱)}]]
(=有')

注釈① “嘿”は“价钱”的拡張属性である“有’(也, RT1) & 有’[RT1, 「算’{我们, 贵’(价钱)}]”を呼び出す。②“价钱”は嘿’函数の第二項の第二命題の第二項の「算’函数の第二項の貴’函数の第一項の“价钱”と同一指示である。

3. 我吧, 从小就爱看小说。(p. 95)

3'

吧' [我, 有' (就, RT1) & 有' [RT1, 从' [我, 小, 爱' {我, 看' (我, 小说)} & 从' [爱' {我, 看' (我, 小说)}, 小]]]]]
(=有')

注釈① “吧”は“我”的拡張属性である“有’(就, RT1) & 有’[RT1, 从’[我, 小, 爱’{我, 看’(我, 小说)} & 从’[爱’{我, 看’(我, 小说)}, 小]]]”を呼び出す。②“我”は吧’函数の第二項の第二命題の第二項の从’函数の第一項の“我”と同一指示である。

3.2 朱德熙 1982 のあげる主語の省略の例の論理式

朱德熙 1982 は「誤解がなければ主語はしばしば省略して言わない（不说）。」と述べるが、推察するに「意味上は存在する」の含意がある。次の例は主語を言わない例である。

4. (我) 昨天晚上到的。(p. 95)

4'

有' [(我), 有' (昨天晚上, RT1) & 有' [RT1, 到' (我) & 有' {到' (我), 的|}]]

注釈①最初の“有’”は“(我)”の拡張属性である“有’(昨天晚上, RT1) & 有’[RT1, 到’(我) & 有’{to’(我), 的|}]”を呼び出す。②“(我)”は最初の“有’”函数の第二項の第二命題の第二項の到’函数の第一項の「我」と同一指示である。

5. (这孩子) 连他妈妈也不认识了。(p. 95)

5'

有' [(这孩子), 有' (也, RT1) & 有' [RT1, 连' [这孩子, 他妈妈, \neg 认识' (这孩子, 他妈妈) & 连' { \neg 认识' (这孩子, 他妈妈), 他妈妈| & 有' [连' { \neg 认识' (这孩子, 他妈妈), 他妈妈|, 了|]]]]]

注釈①最初の“有’”は“(这孩子)”の拡張属性である“有’(也, RT1) & 有’[RT1, 连’[这孩子, 他妈妈, \neg 认识’(这孩子, 他妈妈) & 连’{ \neg 认识’(这孩子, 他妈妈), 他妈妈| & 有’[连’{ \neg 认识’(这孩子, 他妈妈), 他妈妈|, 了|]]]”を呼び出す。②“(这孩子)”は最初の“有’”函数の第二項の第二命題の第二項の连’函数の第一項の「这孩子」と同一指示である。③この論理式で最初の「连’函数」は「～さえ」という前置詞の意味を第二の「连’函数」は「～にかかる」という動詞の意味を表示している。

6. (这几本书) 一共五块钱。 (p. 95)

6'

有' [(这几本书), 有' (一共, RT1) & 有' [RT1, 得' (这几本书, 五块钱)]]

注釈①最初の“有’”は“(这几本书)”の拡張属性である“有’(一共, RT1) & 有' [RT1, 得' (这几本书, 五块钱)]”を呼び出す。②“(这几本书)”は最初の“有’”函数の第二項の第二命題の第二項の得’函数の第一項の「这几本书」と同一指示である。

3.3 朱德熙 1982 の 7.1.2 の用例の論理式

1. 花猫逮住了一只耗子 (動作主格) (p. 95)

1'

有' [花猫, 逮住' (花猫, 一只耗子) & 有' [逮住' (花猫, 一只耗子), 了']]

注釈①最初の“有’”は“花猫”的拡張属性である“逮住’(花猫, 一只耗子) & 有' [逮住' (花猫, 一只耗子), 了]”を呼び出す。②“花猫”は最初の“有’”函数の第二項の第二命題の第二項の「花猫」と同一指示である。

2. 衣服已经缝好了 (対象格) (p. 96)

2'

有' 【衣服, 『有' (已经, RT1) & 有' [RT1, 缝好' (u, 衣服) & 有' [缝好' (u, 衣服), 了]]】】

注釈①最初の“有’”は“衣服”的拡張属性である“[有' (已经, RT1) &

有' [RT1, 缝好' (u, 衣服) & 有' |缝好' (u, 衣服), 了{}]]”を呼び出す。

②“衣服”は最初の“有’”函数の第二項の第二命題の第二項の缝好’函数の第二項の「衣服」と同一指示である。

3. 这个学生我教过他数学。(与格) (p. 96)

3'

有' 【这个学生, 给' 『我, 这个学生, 教' (我, 数学) & 到' |教' (我, 数学),
这个学生{} & 有' [到' |教' (我, 数学), 他{}, 过{}]]】

注釈①最初の“有’”は“这个学生”的拡張属性である“给’ 『我, 这个学生, 教' (我, 数学) & 到' |教' (我, 数学), 这个学生{} & 有' [到' |教' (我, 数学), 他{}, 过{}]]”を呼び出す。②“这个学生”は最初の“有’”函数の第二項の給’函数の第二項の「这个学生」と同一指示である。

4. 这支笔只能写小楷(道具格) (p. 96)

4'

有' 【这支笔, 有' (只, RT1) & 有' [RT1, 能' 『u, 用' [u, 这支笔, 写' (u, 小楷) & 用' |写' (u, 小楷), 这支笔{}]]】】

注釈①最初の“有’”は“这支笔”的拡張属性である“有’ (只, RT1) & 有' [RT1, 能' 『u, 用' [u, 这支笔, 写' (u, 小楷) & 用' |写' (u, 小楷), 这支笔{}]]】”を呼び出す。②“这支笔”は最初の“有’”函数の第二項の第二命題の有’函数の第二項の能’函数の第二項の用’函数の第二項の“这支笔”と同一指示である。

5. 明天他们上广州 (時間格) (p. 96)

5'

有' [明天, 在' [他们, 明天, 上' (他们, 广州) & 在' {上' (他们, 广州), 明天}]]

注釈①最初の“有’”は“明天”的拡張属性である“在’[他们, 明天, 上’(他们, 广州) & 在’{上’(他们, 广州), 明天}]”を呼び出す。②“明天”は最初の“有’”函数の第二項の在’函数の第二項の“明天”と同一指示である。

6. 墙上挂着一幅画 (場所格) (p. 96)

6'

有' [墙上, 在' {u, 墙上, 挂' (u, 画) & 有' (画, 一幅) & 有' (一幅, 着) & 在' (着, 墙上)}]

注釈①最初の“有’”は“墙上”的拡張属性である“在’ {u, 墙上, 挂' (u, 画) & 有' (画, 一幅) & 有' (一幅, 着) & 在' (着, 墙上)}”を呼び出す。②“墙上”は最初の“有’”函数の第二項の在’函数の第二項の“墙上”と同一指示である。

3.4 朱德熙 1982 の 7.1.3. の用例の論理式

1a. 我们昨天开了一个会 (動作主格主語)

1a'

有' [我们, 有' (昨天, RT1) & 有' {RT1, 开' (我们, 会) & 有' (会, 一个) & 有' (一个, 了)}]

注釈①最初の“有”は“我们”的拡張属性である“有”(昨天, RT1) & 有’[RT1, 开’(我们, 会) & 有’(会, 一个) & 有’(一个, 了)]”を呼び出す。②“我们”は最初の“有”函数の第二項の第二命題中の有’函数の第二項の开’函数の第一項の“我们”と同一指示である。

1b. 昨天我们开了一个会 (時間格主語)

1b'

有’[昨天, 在’[我们, 昨天, 开’(我们, 会) & 有’(会, 一个) & 有’(一个, 了) & 在’{有’(一个, 了), 昨天}]]

注釈①最初の“有”は“昨天”的拡張属性である“在’[我们, 昨天, 开’(我们, 会) & 有’(会, 一个) & 有’(一个, 了) & 在’{有’(一个, 了), 昨天}”を呼び出す。②“昨天”は最初の“有”函数の第二項の在’函数の第二項の“昨天”と同一指示である。

2a. 他把电视机弄坏了 (動作主格主語)

2a'

有’[他, 把’[他, 电视机, 弄’(他, 电视机) & 坏’(电视机) & 有’{坏’(电视机), 了} & 到’(了, 电视机)]]

注釈①最初の「他」が次の項の“把’[他, 电视机, 弄’(他, 电视机) & 坏’(电视机) & 有’{坏’(电视机), 了} & 到’(了, 电视机)]”を事態(拡張属性)として呼び出す。②最初の有’函数の第一項の“他”は第二項の把’函数の第一項の“他”と同一指示である。

2b. 电视机让他弄坏了（受け手主語、対象格主語）

2b'

有' [电视机, 让' [电视机, 他, 弄坏' (他, 电视机) & 有' {弄坏' (他, 电视机), 了} & 到' (了, 电视机)]]

注釈①最初の「电视机」が次の項の“让' [电视机, 他, 弄坏' (他, 电视机) & 有' {弄坏' (他, 电视机), 了} & 到' (了, 电视机)]”を事態（拡張属性）として呼び出す。②最初の有' 函数の第一項の“电视机”は第二項の让' 函数の第一項の“电视机”と同一指示である。

3a. 我用这支笔写小楷（動作主格主語）

3a'

有' [我, 用' [我, 这支笔, 写' (我, 小楷) & 用' {写' (我, 小楷), 这支笔}]]

注釈①最初の「我」が次の項の“用' [我, 这支笔, 写' (我, 小楷) & 用' {写' (我, 小楷), 这支笔}]”を事態（拡張属性）として呼び出す。②最初の有' 函数の第一項の“我”は第二項の用' 函数の第一項の“我”と同一指示である。

3b. 这支笔我用来写小楷（道具格主語）

3b'

有' [这支笔, 用' [我, 这支笔, 写' (我, 小楷) & 用' {写' (我, 小楷), 这支笔}]]

注釈①最初の「这支笔」が次の項の“用' [我, 这支笔, 写' (我, 小楷) &

用' {写} (我, 小楷), 这支笔]”を事態（拡張属性）として呼び出す。②最初の有' 函数の第一項の“这支笔”は第二項の用' 函数の第二項の“这支笔”と同一指示である。

4a. 我给小王写了一封信 (動作主格主語) (p. 96)

4a'

有' 【我, 给' [我, 小王, 写' (我, 一封信) & 到' {写} (我, 一封信), 小王], & 有' [到' {写} (我, 一封信), 小王], 了]】

注釈①最初の「我」が次の項の“给' [我, 小王, 写' (我, 一封信) & 到' {写} (我, 一封信), 小王], & 有' [到' {写} (我, 一封信), 小王], 了]】”を事態（拡張属性）として呼び出す。②最初の有' 函数の第一項の“我”は第二項の給' 函数の第一項の“我”と同一指示である。③“一封信”は簡略表記に従う。

4b. 小王我也给他写了一封信 (与格主語)

4b'

有' [小王, 有' (也, RT1) & 有' [RT1, 给' [我, 小王, 写' (我, 一封信) & 到' {写} (我, 一封信), 小王], & 有' [到' {写} (我, 一封信), 小王], 了]]】

注釈①最初の「小王」が次の項の“有' (也, RT1) & 有' [RT1, 给' [我, 小王, 写' (我, 一封信) & 到' {写} (我, 一封信), 小王], & 有' [到' {写} (我, 一封信), 小王], 了]]】”を事態（拡張属性）として呼び出す。②最初の有' 函数の第一項の“小王”は第二項の給' 函数の第二項の“小王”と同一指示である。③“一封信”は簡略表記に従う。

朱徳熙 1982 の主張する現代中国語の主語は話題であるという上述の内容をまとめるとその根拠は次のようになる。

- ①主語と述語の間に停頓がおける。(p. 95)
- ②主語が発話されないことがありうる。(p. 95)
- ③主語が指示するものが「動作主、受け手、与格、時間、場所」など多様である。(p. 95)
- ④談話において発話者が主語を自由に選択できる。(p. 96)

朱徳熙 1982 は「主語と述語の関係は統語論（结构）、意味論（语义）、談話論（表达）の三方面から考察することができる。(p. 95)」と考えている。談話論における主語の役割に論及した研究者は皆無である。従って文脈依存規則（談話論）においては「話題」として主語を捕らえた論理式を書くとよい。

参考文献

1. Chao, Yuen Ren 1968 *A Grammar of Spoken Chinese*, The University of California Press
2. 石本新訳・H・ライヘンバッハ著 1982 『記号論理学の原理』, 大修館書店
3. 方立 2000 《逻辑语文学》北京 : 北京语言文化大学出版社
4. 龚千炎 1995 《汉语的时相时制时态》北京 : 商务印书馆
5. 刘海燕 2008 《现代汉语连动句的逻辑语义分析》成都 : 四川人民出版社
6. 松村文芳 2017 『現代中国語の意味論序説』(神奈川大学言語学研究叢書 8) ひつじ書房
7. 長尾真 『わかるとは何か』(岩波新書 713) 2001 (2003 第七刷), 岩波書店
8. 野矢茂樹訳・ウィトゲンシュタイン著 2003 『論理哲学論考』(岩波文庫 33-689-1), 岩波書店
9. 小倉久和 『形式言語と有限オートマトン入門』1996 (2000 第四刷), コロナ社
10. 朱徳熙 1980 《现代汉语语法研究》北京 : 商务印书馆
11. 朱徳熙 1982 《语法讲义》北京 : 商务印书馆

参考文献は 5、8、10 と 11 を除いては本論文に引用していない。しかし、この論文はここに掲載した参考文献から学んで作成したものである。これらの先行研究の成果なくしてこの論文は成立しないことを明記しておきたい。